

天塩町地域おこし協力隊 活動報告 2016（平成 28 年度）

8 月（役場 協力隊）

8 月 2 日（火）観光ボランティアガイド研修〔1〕



観光協会主催「観光人材育成プロジェクト」の第 3 弾、「観光ボランティアガイド」に関する研修が、天塩町社会福祉会館にて行われました。

今回は、稚内学園大学 准教授の藤崎達也氏を講師にお迎えし「観光ガイド」の基本や、ガイドがする「話」と「かたり」で違うのは「個人的な経験」が重要であるということをお話いただきました。

人を案内するために「正確な情報」は欠かすことが出来ませんが、それ以上にその人が実際に見たり、聞いたり、体験した「生」の声ガイドされる人たちの心をより動かし、十分な満足をもたらす要素になり得るのだということ学びました。

また、研修後半には「天塩川」をテーマに、参加者それぞれが個人的な体験を交えたガイド案づくりに挑戦しました。

作ったガイド案はグループ内で意見交換し、その後、各グループの代表が全体発表。

普段感じていることでも、実際に声に出して伝える、となると難易度が上がります。今回の研修を通して、地域のことを語る際の参考になればと思いました。

次回のガイド研修では「天塩川歴史資料館」にて、立ち振舞や危険管理などを含めた実践的なガイド練習が行われる予定です。

8月8日（月） おもてなし英会話セミナー



8月2日に引き続き、プロジェクトの第4弾「おもてなし英会話セミナー」が午前午後の2回に分けて開催。講師は、現在、稚内を中心に活躍なされている M's English【英語接客コンサルタント】・通訳案内士の馬上千恵氏をお迎えしました。

今回は、挨拶や歓迎の意を示す言葉などを中心に、簡単ながら、実際に使える英語のフレーズをいくつか紹介。また、セミナー後半では、海外の方に町を紹介する想定で、参加者それぞれが自己紹介を交えた、簡単なガイドを英語で行いました。

参加された方々は、最初は恥ずかしそうな様子でしたが、徐々に盛り上がり、終了後は「次回もやってほしい」というような声も聞かれました。

日本国内で、英語を実際に喋る機会というのは少ないですが、それでもこれから増えていくと予想される海外観光客に対し、町の良さを知ってもらうため、英語によるおもてなしは欠かせません。

8月15日（月） 第41回天塩川港まつり



テント設営のお手伝いなどで、第41回天塩川港まつりに参加しました。

天塩高校生による演奏、屋台、バルーンアート、スラックライン、抽選会、花火大会などさまざまなイベントが行

われました。河川敷でたたくみながらごはんを食べ、抽選会や音楽を楽しみ、最後に花火を見るなど、しみまつりとはまた違った雰囲気でした。花火の前には、旭川出身のシンガーソングライターである児玉梨奈さんと、稚内出身の兄弟ユニット「S E — N O」のエビナマスジさんによる音楽ライブも開催されました。会場が一体となり盛り上がったライブの後、花火が打ち上げられました。花火は500発とそれほど多くはないですが、近くで見ることができるので、迫力を感じることができます。また、近くでゆとりをもって見ることもできるので、花火をきれいに撮ることができます。

天塩川港まつりでは、天塩町内で使える商品券と交換できるつかみ取りがあります。狭き門ですが、見事抽選に当たれば、高額の商品券を手に入れることができます。天塩町のキャラクター「てしお仮面」も、音楽に合わせて踊り、つかみ取りを盛り上げてくれました。子どもたちも一緒にてしお仮面のダンスを真似し、踊った後は囲まれ、うれしくも踊り疲れたてしお仮面でしたが、大活躍でした。最後にみんなで花火を見て、天塩町全体が盛り上がるおまつりでした。

8月21日（日） 留萌管内青年農業者夏季交流研修会



留萌管内4Hクラブ連絡協議会主催の研修会にお手伝いとして協力させていただきました。

「でっかい教室北海道プロジェクト」（主催：るもい地域子供農山漁村体験交流推進協議会）と協力し、都市部から来た小学生等に酪農への理解を深め、同時に4Hクラブ内での資質向上・交流促進も行おう、という取り組み。

午前には、町内にある中村牧場にて搾乳を見学し、朝食をとった後に牧草地でロール遊び、牧草地の代表的な雑草「アメリカ（セイヨウ）オニアザミ」取り体験などを行いました。

また、午後になると鏡沼海浜公園のバーベキューハウスにて、オリジナルピザ作り体験や酪農クイズ大会が行われました。

8月25(木) -26日(金) HLAB Workshop in TESHIO



2011年より、一般社団法人「HLAB」が開催している「サマースクール」、そのワークショップが天塩町で8/25-26日と行われ、協力隊も手伝いに協力させていただきました。

北海道でHLABが行われるのは今回が初。

HLABは“世界中から高校生と大学生、社会人が集まり、多様性あふれる環境の中で主体的な進路選択と将来設計について考える”というコンセプトのもと、設立されており、海外大生やトップリーダー、大学生との交流から刺激を受け、高校生が主体的に進路を選択するきっかけづくりを目的としています。

今回、天塩で行われたものは、トライアル版ということもあり、2日間という短い期間でしたが、この日は北海道内の高校生、ハーバード、コロンビア大学などの海外大生、東京大学や一橋大学などの国内大生が天塩町に集まりました。

開催に際して、北海道副知事の山谷吉宏氏もかけつけてくださいました。

また、企業の在宅勤務の導入支援や、テレワーク普及事業など多方面でご活躍なされている田澤由利氏を招へいし、基調講演を行っていただきました。

その後、後継者不足や若者の就業機会減少、空き家問題といった地方が抱える課題について、各グループにて意見交換し、集約したものを全体に発表しました。

レセプション終了後は、多種多様な経験を持つ社会人のゲストを交えたフリーインタラクションが開催。高校生参加者、国内外の大学生も集まり、良いコミュニケーションの場となっていました。

2日目は午前中、天塩町の基幹産業体験。

酪農体験では、放牧されている牛の見学・生乳を使ったバター作り。漁業体験では、朝獲れたしじみの選別や、いくら作りなどを行いました。

普段何気なく飲食しているものでも、実際に生産者の声を聞くことは良い刺激となったのではないかと思います。

午後からは、郷土を味わう体験プログラム。

参加者は事前に希望を取り、各コースに分かれて体験を行いました。協力隊は「白樺樹皮を使ったクラフト」体験に協力させていただきました。

ワークショップ全体を通して感じたことですが、各所に日本人スタッフが通訳として配置されていましたが、高校生が英語を使って、それぞれ「自分の言葉」でコミュニケーションを図っている姿が印象的でした。